

ミカン生育情報

千葉県
平成 29 年 11 月号

平成 29 年 10 月の気象

平成 29 年 10 月の半旬別の気象を表 1 に記した。平均気温は、第 2、第 3 及び第 5 半旬は平年より高く、第 1、第 4 及び第 6 半旬は平年より低かった。月平均気温は 17.7℃で、平年より 0.2℃、前年より 1.2℃低かった。

降水量は、第 1 半旬を除く 5 半旬で平年を上回った。月合計は 525mm で、平年の 210%、前年の 610%であった。

日照時間は、第 2 半旬を除く 5 半旬で平年並みか下回った。月合計は 99 時間で平年の 72%、前年の 84%であった。

台風 21 号が 10 月 22 日に静岡県へ上陸した後、関東地方を通過し、また、台風 22 号が 10 月 29 日に館山沖を通過した。これらの影響で農作物や園芸施設等に大きな被害が生じた。

表 1 平成 29 年 10 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	19.8	20.5	22.2	14	41	22	12	20	7
2	19.7	18.8	22.0	102	77	4	28	20	15
3	19.5	18.6	16.2	38	31	1	19	22	23
4	14.5	17.6	20.1	71	36	12	6	23	28
5	17.6	16.4	16.7	183	28	4	6	23	17
6	15.4	15.9	16.7	119	38	45	29	29	28
平均/計	17.7	17.9	18.9	525	250	86	99	137	118

早生温州の果実品質

着色については、三芳地区と暖地園研では平年より早く、千倉地区は遅れ気味であった(表 2)。糖度は、三芳地区と暖地園研で平年より高かった。酸度は、すべての調査区で平年を下回った。酸度の平均は 0.91%で、1%を下回っていた。甘味比はすべての調査区で平年を上回った。果肉歩合は、すべての調査区で平年を上回った。なお、浮皮の発生はいずれの園地でも軽微であった。

前年と比較すると、着色は前進傾向、糖度は高く、酸度は低い傾向であった。ただし、調査区以外では前年よりも着色の遅れている樹・園地も見られる。

表 2 早生温州の果実品質^{注1} (平成 29 年 11 月 1 日)

調査地	着色程度		糖 度%		酸 度%		甘味比 ^{注2}		果肉歩合%	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
三芳地区	7.3	6.9	10.1	9.4	0.83	1.01	12.1	9.9	82.1	80.8
千倉地区	6.0	7.6	9.2	9.7	1.04	1.17	8.8	8.5	84.3	81.8
暖地園研	8.7	7.1	9.6	8.9	0.86	1.04	11.1	9.0	82.9	82.1
平均	7.3	7.2	9.6	9.4	0.91	1.07	10.7	9.1	83.1	81.5

注 1) 平年値は平成 9～28 年の平均値

注 2) 甘味比=糖度/酸度

果実の生育

10月末の果実の生育を3調査地の平均値で見ると(表3)、横径、縦径の平年比は早生温州ではそれぞれ96%、98%、普通温州ではそれぞれ101%、99%と平年並みであった。川野夏柑ではそれぞれ102%、100%で、平年並みである。

前回調査から今回調査までの肥大量は平年を下回っている調査地・品種が多かった。前年との比較では、早生温州以外、本年の肥大量が上回った。

表3 果実の生育*¹ (平成29年11月1日)

No.		調査地	横径 (cm)	縦径 (cm)
1	興津早生	三芳地区	6.2 (94)	5.0 (98)
2		千倉地区	5.9 (93)	4.7 (97)
3		暖地園研	6.8 (102)	5.2 (100)
4	大津4号	三芳地区	7.5 (107)	5.2 (104)
5		千倉地区	7.3 (101)	4.8 (100)
6		暖地園研	7.3 (99)	4.7 (93)
7	青島温州	三芳地区	7.1 (101)	5.2 (104)
8		千倉地区	6.7 (96)	4.7 (95)
9		暖地園研	7.4 (102)	4.9 (98)
10	川野夏橙	暖地園研	9.2 (102)	7.3 (100)
	平均* ²	早生温州	6.3 (96)	5.0 (98)
		普通温州	7.2 (101)	4.9 (99)

() の数字は平年値(平成9~28年の平均)を100とした比数

*¹ 各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、鳥害、落果、台風害により調査果実を変更した樹がある

*² 早生温州の平均はNo.1~3の平均、普通温州はNo.4~9の平均

11~12月の栽培管理

早生・普通温州の収穫・予措 品質を揃えるため、着色に合わせて収穫する。浮皮は着色後に発生するため、8分着色以上の果実を先に収穫し、分割採取とする。

収穫・運搬・選果の際には、果実に傷がつかないように丁寧に取り扱う。

その後、腐敗防止のため、コンテナの8割ほどまで詰め、風通しの良いところへ置き、2~3%減量させる予措を行う。

病害虫の防除

ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。また、台風の被害で著しく落葉した樹では、散布を見合わせる事が望ましい。

青かび病・緑かび病の予防にはベフラン液剤25(2000倍液)*を散布する。

防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

*農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

台風害に対する備えと事後対策

台風が襲来する前に、

- ① 倒伏しやすい品種（台木）、苗木等に支柱を立て、幹を固定する。
- ② 排水の悪い園では、排水溝の整備・清掃を行い、少しでも排水を促す。
- ③ かいよう病に弱い系統・品種では襲来前にかいよう病対策の薬剤散布を行う。
- ④ 海に近い園地では、台風通過後すぐに、葉についた塩を洗い流せるよう、真水をタンクに確保し、散布機の燃料残量や発電機の稼働確認をしておく。

台風の通過後、自身の安全が確保されてから、事後対策を行う。

事後対策としては、

- ① 潮風にさらされた場合は、用意しておいた真水で、早急に、樹についた塩を洗い流す。
- ② 倒伏した苗木は、起こし、根元に土を寄せ、幹を支柱で固定する。
- ③ 枝が折れた場合は、傷口を整え、傷口を保護するものを塗布する。
- ④ 落葉が著しい場合は摘果をし、樹勢の回復を図る。
- ⑤ 事前にかいよう病対策の薬剤散布ができなかった園は、事後に行う。
- ⑥ 施肥については、落葉の程度により、やり方を変更する。落葉が著しい場合には、その樹に対しての秋肥の施肥中止を検討する。

落葉や枯れこみの発生は、台風襲来から遅れて発生する可能性があるため、その点を留意すること。

何度も台風被害を受けている園では、風当りの強い部分に防風林を育成、被害を受けやすい品種を改植等のタイミングで風当りの弱い場所・事後対策を行いやすい場所に植栽する等、恒久的な対策も検討する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>